

グループディスカッション ワークシート

グループ名: C

【テーマ】「地域自立支援協議会の役割について

～多くの市民が分野や違いを超えてつながり合う地域づくりのために～」

・グループで出た意見や話し合った内容など

【テーマに関連して、日頃の活動の中で感じていることや専門部会で課題にっていること等】

- ・相談支援部会に参加しているが、今ある社会資源をどのように周知していくか、どのようにして分野を超えて繋がり合うかが大事だということを再認識している。当事者も含めて、様々な分野から参加している専門部会の重要は役割だと感じている。
- ・専門部会の活動をきっかけとして、分野を超えて同じテーマで話し合えることが貴重な機会になっている。
- ・事業者同士や当事者と直接会って話す機会が意外と少ないので、専門部会は大切だと思う。
- ・住まい部会に参加しており、同じ事例を共有することで、「個人の課題は地域の課題」という認識が広まりつつある。
- ・2年間という期間が妥当なのか。また、限られた期間の中で何を目標にして取り組んでいくかという部分は検討が必要だと思う。
- ・日頃の業務では同じ分野の限られた人とししか接点が無いので、専門部会でいろいろな人に会うことをきっかけに、新たな気づきや分野を超えた繋がりが生まれている。障害区分に関係なく共通する課題もある。例えば、障害区分は精神障害だが実は知的障害もあるといったケースもあり、分野を超えた繋がりは大切だと思う。
- ・専門部会が、当事者の声を聴く貴重な機会となっている。
- ・長期に渡って専門部会に参加しているが、長い期間で見ると障害者理解もバリアフリー化も確かに進んでいるという実感がある。いきなりは変わらなくても、少しずつ時間をかけて変わっていくこともあるので、同じテーマでも話し合いを続けることは大切だと思う。
- ・相談支援ネットワーク部会に参加している中で、ライフステージの狭間で支援が切れてしまう方がいるので、分野を超えた繋がりを作ることで、そうした支援の切り目をどの

ようにして無くしていくかが大切だと思う。

- ・分野に関係なく、日頃から顔の見える関係が築けているからこそ、いざという時に繋がれると思う。そうした関係性を築いていくことが大切だと思う。
- ・今日の発表を聞いて、家族が当事者の限界を決めてしまっていることが意外と多いのではないかと感じた。

【専門部会の発表や他の参加者の意見を聞いて感じたこと】

- ・親が当事者の自立を阻んでしまうケースもある。最初から回り込んで障壁を排除することが、当事者本人にとって良いことだとは限らない。いろいろな分野の方と話し合うことで、家族にとってもそのした気づきを得る機会になる。
- ・協議会以外にも様々な会議があるので、協議会の枠を超えていくことが分野を超えていくことに繋がるのではないか。

【まとめ】

- ・当事者本人や家族の高齢化、自立に向けた様々な支援ニーズの高まりなど、今後ますます分野を超えた繋がりが大切になっていく。社会資源を新たに作るには労力が大きいですが、今ある社会資源同士が分野を超えて繋がっていくことが、地域課題の解決のために重要である。
- ・協議会や専門部会の活動自体が、分野を超えて繋がるための1つのきっかけとなっており、特に当事者の意見を直接聞けるという点において、今後もその役割は大切にしたい。